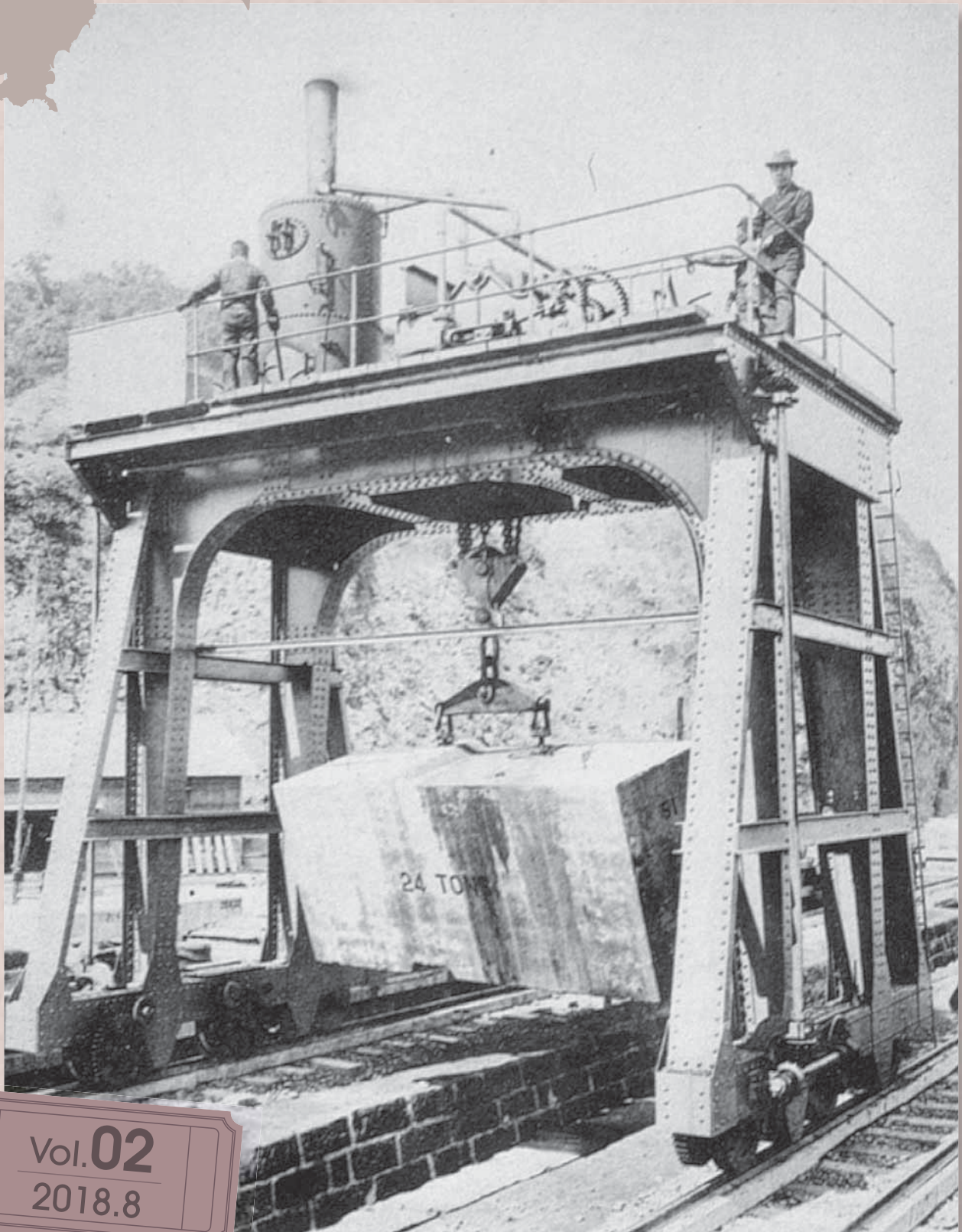


# JCCA

Shikoku Branch, Japan Civil Engineering Consultants Association



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 四国支部



Vol. **02**  
2018.8

1 巻頭言「建設コンサルタントの役割とは？」

(一社)建設コンサルタンツ協会 四国支部 支部長 末澤 等

2 特別寄稿「土佐が生んだ土木偉人 廣井勇に学ぶ」

6 土木関係トピックス

四国地方整備局からのお知らせ～更なる働き方改革の推進～

未来を守る!「安全安心・強靱とくしま」の実現

うどん県は、なにがでっきょん?!

愛顔あふれる愛媛県より～サイクリングしまなみ2018～

高知県土木部の平成30年度予算概要～道路施設の老朽化対策と土砂災害対策の推進～

廣井勇を顕彰する会の設立

12 各部会活動

総務部会／対外活動部会／企画部会／技術部会／資格・情報部会

18 会員紹介

いであ株式会社



株式会社ウエスコ



株式会社エス・ビー・シー



株式会社愛媛建設コンサルタント

26 お知らせ

四国支部ホームページリニューアル

27 役員名簿／部会名簿／会員名簿

編集後記



イギリス製軌道重機  
製作された防波堤用コンクリート  
ブロックを、軌道を用いて運搬する  
軌道重機



# 建設コンサルタントの役割とは？

～世界一の揚水発電所での事例に鑑みて～

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 四国支部長 末澤 等



昨年6月末より四国支部の支部長を拝命している末澤 等です。

この度、「JCCAしこく」に執筆する機会を頂いたので、建設コンサルタントの果たすべき役割について、改めて考えてみた。

コンサルタントとはサービス業であり、そのサービス業の本質的な意味は『顧客ニーズに応えるため、顧客に機能を提供すること』である。

建設コンサルタントサービスで言えば、『顧客の最適化を支援すること』、つまり『顧客が正しく意思決定を行い、計画や仕様（図面など）を確定すること』に対して対価を受けるというのがコンサルタントサービスの本質である。

報告書や図面などの成果品は、サービスの証拠であり、それ自体が商品ではない。発注仕様書通りの成果品を納めて検査を合格すればよいと考えてしまうと、顧客の本来の目的である「最適化」は達成していないことになる。

このように考えて思い当たるのは、ある調査団で訪問した米国の揚水発電所のことである。

その発電所とは、米国バージニア州とウェストバージニア州との州境にあるアパラチア山脈の一角に位置し、当時世界最大と言われていたバスカウンティ揚水発電所である。この発電所は、VEPCO社（バージニア電力）とASP社（アレゲニィ・パワー・システム社）の共同運営であり、発電所の諸元は以下のとおりである。

上部ダム貯水池容量；1,300万m <sup>3</sup>
有効落差；385m
最大発電容量；210万KW（35万KW×6台）
着工；1977年
運用；1985年（経済的理由により2年間中断）
総工事費；17億ドル

この発電所では、初充水直後より導水路トンネルからの

漏水が発生するとともに、水圧鉄管の鋼製ライナーが13.5mに亘り座屈破壊するという事故が発生した。その後グラウト、排水設備等の大改修を行ったが、発電所山側側壁からの漏水・はらみ出しや上流地山のすべりが続いていた。

VEPCO社の担当者の説明では、事故の原因は岩盤のデータ不足によるとのことであったが、入手できた資料をもとに、私なりに事故の原因を分析してみた。

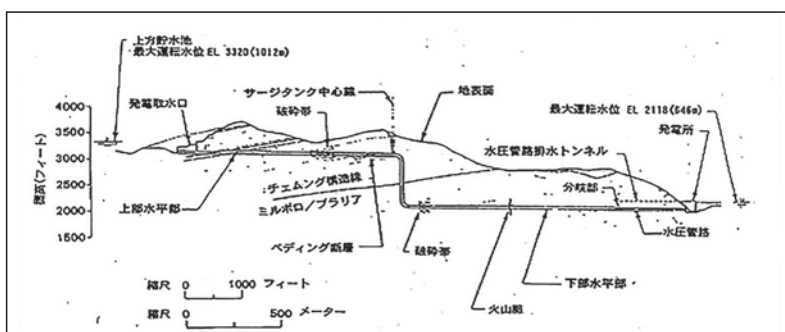
導水路トンネルの地質状況は、地質図や露頭岩盤によれば、低角度の断層・地層境界が存在しているとともに、周辺岩盤（砂岩・頁岩の互層）内には節理や破碎帯が存在しており、透水性が高いことなどが見受けられた。

このような地質状況の場合、我が国では発電所を地下式として立坑直下流に配置し、高水圧が作用する導水路トンネルの下部水平部は、その延長を極力短くしたうえで鉄筋コンクリート製とし、必要に応じて鋼製ライナーを設けるのが一般的である。

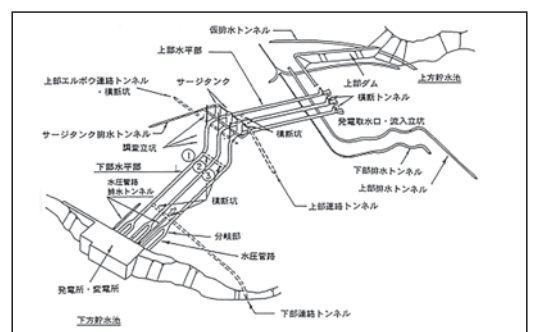
しかし、この発電所では、発電所の建設費を抑えるため発電所を地上式として最下流端に配置し、そのことにより高水圧が作用する導水路トンネル下部水平部の延長が非常に長いという『米国流のレイアウト』が採用されている。

さらに導水路トンネルの巻立てコンクリートは、下部水平部を含めてほぼ全長が無筋コンクリート製であり、その設計の考え方は、「トンネルに作用する高水圧を全て岩盤に負担させ、巻立てコンクリートはひび割れが発生しても構わない」、すなわち「巻立てコンクリートは粗度係数を小さくするのが主な役割であり、漏水は不透水性の岩盤で止水される」というものである。

これらのことから、事故の原因は、節理、破碎帯、断層などが存在するという地質調査結果が連携・反映されずに、一般的なレイアウト計画・構造設計が採用されたことであり、地質調査、設計を担当したコンサルタントは、『最適化』という建設コンサルタントの本来の役割を果たしていないのではないか？改めて考えさせられる。



水路縦断地質図



地下構造物鳥瞰図

土佐が生んだ土木偉人

# 廣井勇に学ぶ

古川勝三

## 1 没落武士の子

廣井勇は、幕末の1862年9月2日、土佐藩（現在の高知県）の佐川村内原（現在の佐川町上郷）に生まれた。父の喜十郎は土佐藩の筆頭家老深尾家に仕える藩士で主に土佐藩のお納戸役に付いていた。妻の寅子との間には姉の春子と長男の数馬がいた。廣井家は代々、藩を代表する儒学者の家系で、数馬は物心ついた頃から、祖父や父について漢書の素読や習字を学び、また武士の子として武芸で鍛えられた。

徳川幕府の崩壊、それは武士の時代の終わりを意味した。彼らは禄（給与）を止められ、一気に没落。廣井家では、それに追い打ちをかけるかのように、明治3（1870）年、父が37歳の若さで他界した。家には、祖母と母、二人の子供が取り残された。長男であった数馬は9歳の若さで廣井家の跡取りとなったのである。家族は高知に移り、知人宅の離れを借り、そこで赤貧の生活が始まった。名を勇に変えたのはこの頃のことである。



生誕地記念碑

## 2 学成らずんば死すとも帰らず、決意を持って東京へ

廣井勇の人生に大きな転機が訪れた。東京で明治天皇の侍従を務める叔父の片岡利和が、帰省の折、廣井家に立ち寄ったときのことである。勇は叔父に懇願した。「東京に出て勉強したい。自分を書生に使ってほしい」と。片岡はためらった。まだ10歳の少年である。しかし、少年の意志は強固で、その熱意が家族と片岡を動かした。

1872年、勇は叔父に連れられて、土佐の浦戸で東京行きの船に乗った。岸壁には母と姉の春子が手を振っている。少年は目に涙をためながら、姉が別れ際に語った言葉を思い出していた。「お前もサムライの子です。『もし学成らずんば、死すとも帰らず』の気概を持ちなさい」。勇は片岡家の邸宅で玄関番を命じられた。日中は、英語、数学、漢学などを学ぶため私塾に通い、暇を見つけては片岡家の書斎の本を借り受け、貪るように勉強した。その後、東京外国語学校の英語科に入学。当時、最難関の学校に満12歳で入学を果たした。もちろん最年少である。その後、理工科系では名門中の名門であった工部大学校予科へ転学したものの、そこを中退。北の未開の大地北海道に向かうのである。片岡家に頼る生活を断ち切りたかったからであった。

## 3 札幌農学校へ入学

廣井勇が札幌農学校2期生として北海道に渡ったのは、1877年9月。15歳の誕生日を迎えたばかりであった。前年に教頭として赴任していたウイリアム・クラークの感化により、1期生はほとんどクリスチャンになっていた。同校は官立ではあったが、さながらミッションスクールのようなあり、クラークが帰国した後ではあったが、キリスト教信仰の熱気に溢れていた。そこに飛び込んできたのが廣井ら2期生。その中には、内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾など錚々たる俊英がいた。そこでも廣井は最年少で

あった。

クラークの教育方針は、キリスト教を基本とする人格教育で、この伝統は、その後2代目教頭となるウイリアム・ホーラーによっても引き継がれていた。ホーラーは26歳の若さであったが、土木工学、測量、数学、図学などを学生に教え、2期生に与えたその影響力は計り知れない。このホーラーや1期生の感化により、廣井ら2期生の大半は翌年の6月に、キリスト教の洗礼を受けることになる。



札幌農学校入学時の廣井勇

## 4 札幌農学校で洗礼、クリスチャンネームは「チャールズ」

彼らは毎週聖書研究会を開催。礼拝も学生が持ち回りで担当するような素朴なものであったが、彼らには確かな内的覚醒が芽生えていった。特に廣井の信仰は、後に日本を代表するキリスト者となる内村鑑三をして次のように言わしめた。「一時は、私が今日おるべき地位（伝道師）に君が立つのではあるまいかと思われたくらいであった」。

しかし、廣井は伝道師になる道を選ばなかった。聖書を教える代わりに土木工学を通して、貧乏国の日本を富ますこと、つまり「世俗の事業に従事しながら、いかに天国のために働こうか」を考えていた。これこそがクリスチャンである自分に与えられた天命と感じていたのである。

## 5 自費でアメリカへ留学

廣井ら2期生10人が卒業したのは、1881年7月。北海道に残り開拓使に勤めたが、翌年には開拓使が廃止。廣井は工部省に転じ、東京生活を余儀なくされた。この頃、廣井の心を占めていたのは、「是非ともアメリカに渡って、土木工学を極めたい」という熱い思いであった。

彼は渡航経費捻出のため、生活費を切りつめ貯蓄に努めた。服装は粗末のまま。意味もなく金銭を浪費する会合などには一切顔を出さなかった。同僚たちは彼を「守銭奴」と陰で呼んでいたほどである。そうまでして金を集めたのは、自費での渡米にこだわっていたからだ。先輩を差し置いて、年少の自分が国費で渡米することを潔しとしなかったのである。ついに念願が叶い、1883年12月、21歳の廣井を乗せた蒸気船が横浜を出港した。アメリカ4年、ドイツ2年の長きに及んだ彼の海外生活がこうして第一歩を踏み出したのである。

苦学生であった廣井勇は、留学といっても大学にこもって勉強したわけではない。滞在費用を捻出するため、土木の現場で働かざるを得なかった。そうした実体験の中で技術を身につけた。その上、当時必携といわれた本まで出版してしまったのである。

滞在先は西部開拓の拠点セントルイスである。ここに下宿し、ミシシッピー川の河川改修事業に携わった。その後、設計事務所に雇われ、設計と施工を手がけた。さらには、鉄道会社や橋梁会社の技師となることで、鉄道の橋梁の設計、施工に従事することになる。廣井の場合、留学といっても、大学にこもって勉強したわけではなく、土木の実際の現場を体験した。滞在費用を自分の手で稼がなければならなかったからではあるが、結果的には、それが土木技術者として彼の大きな財産となった。

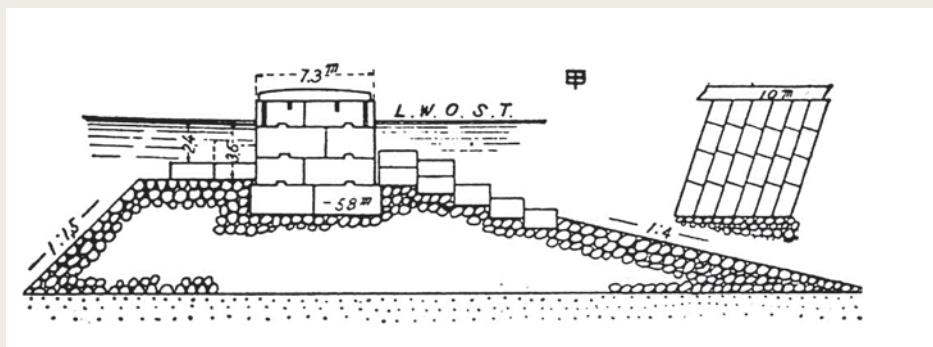
仕事に励む傍ら、彼は勉強を怠ることはなかった。同僚は彼の部屋の明かりが消えているのを見たことがなく、「日本の青年はこうも勉強するものか」と感心していたと言う。仕事と勉強、そして読書三昧の日々。こうした現場体験の中、彼は英文の論文を書き上げ、それを本として出版した。『プレート・ガーダー（鉸桁橋）建設法』と題したこの本は、大変高い評価を受け、橋梁工学者の間では必携のハンドブックとされた。主要大学の理工科系大学図書館には、今でも蔵書されているという。25歳の快挙である。



アメリカ留学時の廣井勇

## 6 100年の風波に耐えられる小樽北防波堤の築港

約6年間の留学生生活を終えて、帰国したのは1889年7月のこと。帰国後、母校の札幌農学校教授として迎えられ、札幌に居を構えた。その後の廣井の活躍は目覚ましい。札幌農学校で教育するかたわら、北海道庁の技師を兼任し、北海道の港湾建設の大半に携わり、それを指揮した。その中でも小樽港は廣井が指揮した代表例である。小樽築港事務所長として、10年に及ぶ一大公共事業に臨んだ廣井はそこに持てる全てを投入した。工事は困難を極めた。暴風雨により、積み上げたコンクリートブロックが何度も散乱。その上、日露戦争のあおりで予算が大幅に削減された。不利な条件下で完成したこの工事は、今なお「模範工事」と称賛されている。築港から百年以上たった今でも機能しているその優れた技術力の故であり、廣井の指導力と周密な計画により、予算を余しての完成となったからである。



廣井の描いた堤防断面図

廣井は常に第一線に立ち、現場で指揮を取った。ある年の12月25日、突然の嵐が防波堤を襲った。資材が次々と流される。多額の国家予算を投じて作られた巨大クレーンも大波にさらされていた。これが流されてしまえば、このプロジェクトは水泡に帰す。

廣井は大自然の猛威の前に立ち尽くすばかりであった。人事を尽くして天命を待つ心境で、荒波の前に夜を徹して祈った。翌朝、駆けつけた作業員たちは驚いた。かちかちに凍つたカッパを着て、祈る廣井がそこにいたのである。幸いにも、クレーンは少し傾いただけ。防波堤も怒濤に耐え抜いた。この時、廣井は胸に密かにピストルを忍ばせていたという。万が一の場合、責任を取って防波堤と共に死する決意であった。

## 7 東京帝大工科大学での人材育成

廣井勇は土木技術者であり、近代日本の揺籃期に土木界を牽引した先駆者である。小樽港をはじめ、港湾、橋梁、ダムなど、彼の事業は全国各地に残され、今なおその輝きは失せていない。しかし、彼の最大業績はこれら建造物を世に残したこと以上に、札幌農学校および東京帝国大学の教授として、優れた門弟たちを世に送り出したことである。1899年9月、廣井は東京帝大工科大学（現在の東大工学部）から教授として招聘された。学生には常に「工学者たるものは、自分の真の実力をもって、文明の基礎付けに努力しておればよい」と言って、学閥におもねる立身出世主義をたしなめた。授業は常に真剣勝負である。一人でも遅刻者があると、廣井は怒りで顔を真っ赤にして、その日の講義はほとんど聞き取れないものになったという。廣井から直接指導を受けた教え子から、廣井山脈と呼ばれる人材が育っていった。小樽堤防を完成させた伊藤長一郎、パナマ運河構築に参画した青山士、台湾の烏山頭ダム建設に当たった八田與一、鴨緑江に水豊ダムを完成した久保田豊など実に多くの傑出した人材が育っていった。まさに東京帝大土木工学科の一大黄金時代を築いたのである。



帝大教授の廣井勇

## 8 近代土木の先駆者

仙台市の広瀬橋、北海道の渡島水力電気工事、鬼怒川水力ダムなど、廣井が顧問として関わった工事は数多い。どれも廣井の助言で新技術を導入して完成させたものである。しかし、彼は一切の報賞金を受け取らなかった。金品を渡そうとすると、「費用に余裕があるならば、その資金で工事を一層完璧なものにしていきたい」と言って拒絶することが常だった。

贈収賄が当たり前の土木建設業界にあって、彼は常に身を清く保った。贈答品や金品には一切手を触れようとはしなかったし、宴会嫌いでも有名だった。また大学で発明した機器類は決して自分の特許とせず、自分の利益とすることはなかった。還暦(60歳)の祝い金として寄せられた祝金も、みな母校の北大工学部と土木学会に寄付してしまった。

1928年10月1日、高潔無私を貫いた廣井勇は、67年の生涯に幕を下ろした。亡き友の葬儀で内村鑑三は、葬儀の追悼演説で語った。「君の堅実な信仰は、多くの強固なる橋梁、安全なる港に現れています。しかし、廣井君の事業よりも廣井君自身が偉かったのであります。君自身は君の工学以上でありました」。



小樽築港公園に建つ廣井勇の胸像

## 9 廣井 勇の言葉に学ぶ

- 1 橋を作るなら、人が安心してわたれる橋を作れ
- 2 橋の設計において大切なことは、下から見た美しさである
- 3 工学には、数式だけでなく美的センスが必要である
- 4 現場は技術者の教科書である。自分の目で確かめよ。
- 5 節約せよ。余剰金は構築物の延命工事に使え
- 6 50年を経ずしてコンクリートを語るな
- 7 工学は何のためにあるか？それを利用する人のためであり思索する時間を生み出すのが工学である
- 8 美しい構築物は、常に強靱である
- 9 論文や設計図には、オリジナリティーが必要である
- 10 技術者は官僚的出世主義に陥ってはならない



- 古川勝三 ふるかわかづみ  
1944年 愛媛県宇和島市生まれ  
1967年 愛媛大学卒業、以後教職の道を歩む  
1980年 文部省海外派遣教師として、台湾省高雄日本人学校で3年間勤務  
1983年 「台湾の歩んだ道」「台湾を愛した日本人」台湾で出版  
1991年 「台湾を愛した日本人」で土木学会著作賞受賞  
2001年 「嘉南大圳之父」八田與一傳 中国語版台湾で出版  
2009年 「台湾を愛した日本人」土木技師八田與一の生涯改訂版を創風社より出版  
2013年 台湾政府観光局より台湾観光貢献賞 (Taiwan Tourism Award) 授与される  
2013年 「日本人に知ってほしい『台湾の歴史』」を創風社より出版  
2015年 「台湾を愛した日本人II」近藤兵太郎の生涯をアトラス出版より出版

## 四国地方整備局からのお知らせ ～更なる働き方改革の推進～

### 1 平成30年度予算概要

#### 【予算概要】

四国地方整備局の平成30年度予算は、直轄事業が1,388億円、補助事業が1,890億円、合計で3,278億円。直轄事業は対前年度比3%増、補助事業では対前年度比4%増となりました。国土交通省全体の事業費は対前年度比2%増となり、全国の伸率を上まわる予算が配分されました。国土交通省では、「被災地の復旧・復興」、「国民の安全・安心の確保」、「生産性の向上と新需要の創出による成長力の強化」及び「豊かで活力のある地域づくり」の4分野に重点化し、施策効果の早期発現を図ることとしています。四国では主に、南海トラフ地震や頻発する自然災害等への対策、地域経済の好循環や生産性向上に資する「8の字ネットワーク」の推進や社会インフラの老朽化対策を推進します。また、四国地方整備局ではi-Constructionの深化など生産性向上を推進するとともに、働き方改革を加速させてまいります。

特に、①設計業務等の品質向上に向けた業務環境の改善への取組として、履行期限の平準化及び適切な履行期間の設定、②ウイークリー・スタンスの実施、③担い手の中長期的な育成・確保の観点から、本年度から新たに配置予定技術者の年齢評価の試行を総合評価落札方式（簡易型）で実施し、④建設生産システム全体の上流に位置する、測量・地質調査分野へのICTの活用を進め、⑤大規模構造物の詳細設計では、BIM/CIMの活用を原則対象として発注してまいります。

### 2 開催イベントの紹介

#### 【建設フェア四国2018in高松の開催】

2年に1度開催している「建設フェア四国」が、4年ぶりに高松（サンポート高松周辺）を会場として平成30年10月19日（金）、20日（土）の両日、10：00～16：00にて開催します。今回は、「つくる・ふれる・まなぶ 未来の暮らし博」をテーマに開催し、「職人体

験コーナー」や「ICT技術体験コーナー」等様々なイベントを企画しています。建設フェア四国の恒例イベント「どぼじょ工作教室」を開催予定ですので、皆様と一緒に、是非ご参加下さい。

#### 【ICT講習会等のお知らせ】



どぼじょ工作教室の様子

平成29年度11月、ICTの全面的な活用を一般の方も含め広く浸透させ、取り組みの一助となることを目的とした、「ICT施工技術講習会」と「ICT建機・測量機器展示・実演フェア」を開催し好評を頂きました。今年度は、BIM/CIMについても内容を充実させて開催します。

### 3 その他

イベント内容などの詳しい情報は、四国建設広報協議会 Facebook や Twitter にて随時お知らせします。

また、Instagram で四国の社会資本整備の魅力を発信中です。ぜひご覧下さい！

#### お問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局  
企画部企画課 087-851-8061 (代)  
<http://www.skr.mlit.go.jp/>



# 未来を守る！『安全安心・強靱とくしま』の実現

## 徳島県 県土整備部

### 1 平成30年度予算（公共事業）概要

今年度の県当初予算は、「地方創生・実感予算」と銘打ち、「経済・雇用対策」や「安全・安心対策」、「とくしま回帰の加速」などの事業を盛り込み、編成しております。

特に、公共事業につきましては、切迫する大規模災害の脅威に備え、「県土強靱化」を加速するべく、国補正予算の積極的な獲得を図り、切れ目のない14ヶ月予算として、対前年度比20%・128億円増の約723億円を確保するとともに、「県単独維持補修費」についても、17%増の過去最大50億円と大幅に増額し、総額773億円といたしました。

これにより、南海トラフ巨大地震をはじめ、台風や局所的な豪雨をもたらす線状降水帯による水害・土砂災害など、大規模災害を迎え撃つ「災害に強い地域づくり」の強化に、県を挙げてしっかりと取り組んで参ります。

(単位：百万円、%)

区分	H30当初	H29補正	14か月	H29当初	比較 14か月/H29当初
一般・県単公共	41,771	8,979	50,750	40,320	125.9
国直轄事業	9,976	975	10,951	9,287	117.9
災害復旧	10,581		10,581	10,578	100.0
小計	62,328	9,954	72,282	60,185	120.1
県単維持	5,000		5,000	4,277	116.9
合計	67,328	9,954	77,282	64,462	119.9

### 2 設計業務等の制度改正・改善

地域の安全・安心を支え、「未来のとくしま」を担う建設業界の若者を育成すべく、就労環境の改善など、働き方改革も積極的に進めているところです。

#### 1) ウィークリースタンスの拡大

平成29年度より、設計業務等の一部の委託業務において、業務着手時に受発注者間で曜日毎の仕事の進め方を決定・共有するウィークリースタンスを試行してきましたが、今年度より、災害関連業務を除く「全ての設計業務」で実施するほか、測量業務も試行対象として参ります。

#### 2) 土木設計業務等の設計変更

設計業務等において、設計変更を行う際の受発注者双方の留意点や、設計変更を行うことができる条件や事例を明示した「土木設計業務等設計変更ガイドライン」を策定しました。これにより、契約関係における責任の所在の明確化及び契約内容の透明性の向上を図り、受発注者間のコミュニケーションを確保しつつ、正しいルールの相互理解のもと、設計変更の円滑化及び適正化を図って参ります。

#### 3) 地質技術者を加えた「三者会議」の実施

橋梁やトンネル等の重要構造物や現場条件が特殊な工事等について、発注者・受注者・設計者が一堂に会する「三者会議」を実施し、工事の施工上の課題や対応方法などに関する認識を共有してきました。今年度からは、地質の不確実性が特に高い現場等において、「地質技術者」も「三者会議」に参画していただくことで、地質情報や地質リスクなどを関係者で共有し、更なる工事施工の円滑化と品質確保を図ります。

#### 4) 設計に係る仕様・基準の変更

一般的な現場打ち鉄筋コンクリート構造物におけるスランプ標準値を従来の8cmから12cmにするとともに、鉄筋コンクリート構造物の設計業務及び工事において「機械式鉄筋定着工法」を積極的に採用することで、コンクリート工の生産性の向上を図ります。

#### お問い合わせ先

徳島県 県土整備部 県土整備政策課

TEL 088-621-2521

FAX 088-621-2864

## うどん県は、なにがでっきょん？！

香川県 土木部 技術企画課

## ❶ 平成30年度予算（土木部関係）概要

香川県は「新・せとうち田園都市創造計画」および「かがわ創生総合戦略」に沿って「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の三つの基本方針の下、人口減少・活力向上対策の総合的な推進、地域経済の活性化、今後発生が懸念される南海トラフ地震への対応や台風・豪雨など近年頻発する自然災害に対して安全・安心を支える強靱な社会資本整備の構築に向け、各種施策を展開しています。

県の平成30年度当初予算（一般会計）のうち、土木部関係予算は、対前年度比で1.6%の増額となる約465億円を確保しております。この予算を最大限に活かすため、ストック効果を重視しつつ、各事業を推進する予定です。

ハード対策の例としては、高松空港へのアクセス向上による利便性の拡大に向けて、高松空港と高松自動車道を結ぶ県道円座香南線（地域高規格道路）の整備や、重要港湾である高松港において、国際物流ターミナルの整備を進めてまいります。また、南海トラフ地震や大規模な風水害に備え、海岸や河川で地震・津波対策を重点的・集中的に実施し、河川改修や砂防施設整備も推進してまいります。さらに、治水対策と安定した水資源の確保・供給のため、香東川水系において椀川ダムの建設を継続してまいります。

ソフト対策の例としては、河川の浸水想定区域等の指定による警戒避難体制の充実や民間企業等のBCP策定支援に取組んだり、「香川県公共土木施設アセットマネジメント基本方針」に基づき、施設ごとの長寿命化計画を順次策定し、必要な対応を計画的に実施する予定です。



## ❷ 働き方改革に向けた取組み

国全体で働き方改革が求められている中、特に建設産業においては、休日の確保など、将来の担い手を確保するための労働環境改善が喫緊の課題となっています。本県においても完全週休二日制モデル工事や余裕期間設定工事を試行するとともに、ICT技術の活用や施工時期の平準化などi-Constructionの取組を通じて、働き方改革を積極的に進めているところです。

## ❸ 開催イベントの紹介

7月21日（土曜日）から8月19日（日曜日）の毎週土・日曜日に、瀬戸大橋記念公園及び同記念館において、夏イベント「瀬戸大橋30th感謝祭 30年目の夏を楽しもう！」を開催しますので、ぜひどうぞ！



## お問い合わせ先

香川県土木部 技術企画課

TEL 087-832-3510

## えがお 愛顔あふれる愛媛県より

### ～サイクリングしまなみ2018～

愛媛県 土木部

#### 1 はじめに

建設コンサルタント四国支部におかれましては、高度な技術力を活かし、四国の社会資本整備に取り組んでいただくとともに、日頃から、本県の土木行政をはじめ、県政の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜っておりますことを心より感謝を申し上げます。

#### 2 平成30年度予算（土木部）の概要

愛媛県の平成30年度当初予算は、県の重点施策3本柱の「防災・減災対策」、「人口減少対策」、「地域経済の活性化」の取組みを深化させる予算となっており、平成29年度2月補正予算と合わせ、地域活性化に配慮した切れ目のない対策を講じることとしています。

土木部予算では、全国と比べ遅れている社会資本整備の推進に加え、南海トラフ地震への備えや頻発化・激甚化する集中豪雨による洪水や土砂災害などの大規模災害への対応、高度経済成長期に整備された社会インフラの老朽化対策、更には、深刻化する建設業界の担い手不足など、解決すべき多くの課題に対処することとしています。この他、大洲・八幡浜自動車道などミッシングリンクの早期解消、山鳥坂・鹿野川ダム、JR松山駅付近連続立体交差事業、上島架橋岩城橋などに重点を置いて着実に社会資本整備に取り組むこととしております。当初予算では、一般公共事業費313億円（対前年1.02）、また、県単独事業では重点施策の「防災減災」を中心に114億円（対前年0.98）を計上し、全体として691億円（対前年1.00）となっています。

#### 3 サイクリングしまなみ2018



愛媛県では、サイクリングが健康・生きがい・友情を育むという「自転車新文化」の基本理念のもと、県全体が「サイクリングパラダイス」になることを目指して、本県の強みを生かした独自の

自転車振興策による交流人口の拡大や実需の創出をはじめ、自転車の安全利用の促進による交通事故の防止や県民の健康づくりなど、自転車を切り口とした施策を総合的に展開しているところです。

特に、サイクリングを活用した観光振興については、本年10月28日に「瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会『サイクリングしまなみ2018』」を開催することとしています。この大会の特徴は、①高速道路を規制して行う日本唯一のサイクリング大会、②世界有数のサイクリングコースで国内外から7,000名の参加者を迎える国際的なファンライドイベント、③瀬戸内しまなみ海道の絶景や自然美を堪能できるコース設定、④瀬戸内の島ならではの「おもてなし」となっていますので皆様の応援をよろしくお願いいたします。

※エントリーは終了しています。

※通行規制には注意願います。

大会公式HP <http://cycling-shimanami.jp>



#### お問い合わせ先

愛媛県土木部土木管理局  
土木管理課技術企画室

# 高知県土木部の平成30年度予算概要

## ～道路施設の老朽化対策と土砂災害対策の推進～

高知県 土木部

### 1 平成30年度予算（土木部関係）概要

平成30年度の土木部の予算は、5つの基本的な考え方のもとに予算編成を行いました。1点目は「南海トラフ地震対策の効率的な実施」、2点目は「土砂災害対策や河川における再度災害防止対策の促進」、3点目は「観光振興など地域経済活性化のための事業の推進」、4点目は「既存インフラの有効活用と長寿命化によるライフサイクルコストの低減」、5点目は「事業のプライオリティの明確化と実効性のあがる事業の推進」です。

建設工事の発注や業務委託費である投資的経費は585億7,600万円で、平成29年度と比べて48億7,900万円、1.09倍の増となり、積極型の予算を確保しました。

喫緊の課題である南海トラフ地震対策の加速化に向けては、住宅の耐震化や高知港海岸の直轄海岸整備事業、いわゆる浦戸湾の三重防護などの促進に取り組みます。

一方、中山間地域の活性化の推進と安全安心の確保にも配慮しながら、1.5車線の道路整備など、速やかに効果が発現する事業の執行に努めます。

### 2 道路施設の点検・診断

平成26年7月の道路法施行規則により5年に一回の頻度で行うことが義務付けられた橋梁等の道路施設の点検・診断については、平成30年度で1巡目点検が完了する見込みです。まずは、従事していただいた関係の皆様へ、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

平成30年度は、平成29年度に実施した点検・診断により、健全度評価Ⅲとなった橋梁やトンネルの補修設計を行うこととしていますので、引き続き御協力をお願いします。



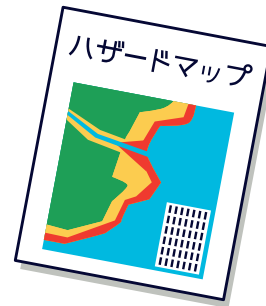
### 3 土砂災害防止法基礎調査

土砂災害防止の取り組みでは、土砂災害のおそれのある区域を明らかにするため、土砂災害特別警戒区域（いわゆるレッドゾーン）の調査を本格化しています。

この事業は、平成31年度末の完了を目指しており、今年度は、平成29年度補正予算24億円とあわせて約28億円をもって、約1万箇所の調査を予定しています。

また、本年度から防災砂防課内に「土砂災害対策推進室」を設置し、円滑に調査や区域指定が実施できるよう体制を整えたところです。

残りの調査箇所数もまだまだ多くあり、今後も調査会社の皆様の総力をお借りし、効率的に業務を執行して調査の完了を目指してまいりますので、これまで以上の御協力をよろしくお願いします。



### お問い合わせ先

橋梁・トンネル補修設計について

道路課チーフ（修繕担当）

山口雅裕（TEL (088) 823-9832）

土砂災害防止法基礎調査について

防災砂防課土砂災害対策推進室チーフ

山本隆介（TEL (088) 823-9847）

## 廣井勇を顕彰する会の設立

廣井勇を顕彰する会 幹事 河野一郎

### 1 設立までの経緯



近代土木の礎を築いた廣井勇は、土佐藩佐川村（現高知県佐川町）に生まれました。札幌農学校を卒業、アメリカへ自費で留学し、英文の橋梁専門書を発行し、高い評価を得ました。帰国後、北海道小樽港建設に携わり、博士が設計した

日本初のコンクリート製防波堤は、完成から100年経った今でも小樽港を守っています。さらに、廣井勇は八田與一、青山士、宮本武之輔、久保田豊など、キラ星のごとく活躍した「廣井山脈」と呼ばれる優秀な技術者を数多く育成しました。

一方で、廣井勇の功績は、同じ土佐藩出身の坂本龍馬や板垣退助と比べても、ましてや札幌農学校同期生の内村鑑三や新渡戸稲造と比べても、あまりに知る人が少ないことは残念でなりません。小樽港に廣井勇の胸像はあるものの、生まれ故郷の高知県佐川町には小さな生誕碑がひっそりと建立されるのみで、訪れる人もほとんどいません。そこで、佐川町に廣井勇の功績をもっと多くの人に知っていただき、故郷の佐川町に立派な銅像を建立することを目標として「廣井勇を顕彰する会」を立ち上げるべく、平成29年8月21日に設立準備会を発足いたしました。

### 2 設立記念シンポジウムの開催

設立準備会で検討を重ね、平成30年5月14日、廣井

勇を顕彰する会の設立を記念して、シンポジウムを開催いたしました。シンポジウムには建設業界関係者はもとより、県内の高校生、大学生の参加もあり、370名を超える方にご出席いただきました。シンポジウムの第1部では、「台湾を愛した日本人（改訂版）- 土木技師 八田與一の生涯 -」の著者であり、土木偉人に造詣の深い古川勝三氏より、ご講演いただきました。第2部では、リレーションとして、学生による3演題の発表をいただき、廣井山脈の偉業について理解を深めました。同日に設立総会・記念祝賀会を開催し、正式に活動を開始いたしました。

### 3 会員募集

「廣井勇を顕彰する会」では、会員を幅広く募集しております。当会の趣旨にご賛同いただける方のご入会をお待ちしております。入会金は一人1,000円で、年会費等はありません。詳しくは事務局へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

#### お問い合わせ先

廣井勇を顕彰する会事務局

((株) 第一コンサルタンツ内)

〒781-5105 高知県高知市介良甲828番地1  
TEL : 088-821-7770 FAX : 088-821-7771  
ホームページ : <https://www.hiroi-isami.com>



# 支部だより

## 総務部会

### 1.はじめに

総務部会では、支部の組織・運営に関する活動や、社会貢献活動、災害時における支援活動、組織の充実と活動の強化に関する活動を行っています。

### 2.平成29年度の活動報告

#### 1) 支部役員会、諮問委員会の開催

支部役員会は支部の組織・運営に関することの決定機関として、支部長を始め理事、監事からなる総勢14名で構成されており、7回開催しました。

また、諮問委員会は支部が抱える諸課題の検討機関として、さらには、支部役員会の審議を円滑に進めるための補佐機関として、委員長を始め専門部会の部長からなる総勢6名の委員で構成されており、5回開催しました。



支部役員会開催状況

#### 2) 社会貢献活動の実施

四国支部では、児童、学生、市民の方々を対象として、環境問題、自然再生等に関する知識・情報等を習得して頂くとともに、建設コンサルタントの役割等をアピールする機会として、四国4県で学校教育・生涯教育への支援活動を実施しています。

平成29年度は、9月～11月の間で、四国4県全体で、約670名に参加いただきました。

徳島県部会では、「とくしま防災フェスタ2017」の機会を利用し、地球温暖化を考える環境学習を行いました。



ドローン活用映像学習(徳島)

高知県部会では、アジロ山での自然体験学習と題して、森林では植樹、環境関連のクイズ、広場では、クラフト体験、距離当てゲーム、のこぎり体験、森の音楽祭などを行いました。



アジロ山環境学習(高知)

愛媛県部会では、地元小学生が、重信川松原泉で、バッタ・トンボ・カマキリ等の昆虫採集を行い、名前や見分け方を学び、「昆虫採集エリア・マップ」として取りまとめ、成果発表及び講評を行いました。



重信川昆虫教室(愛媛)

香川県部会では、地元小学生がゴミ分別場を訪れ、自分たちの身近な家庭ゴミの分別方法、リサイクル方法等について環境学習会を行いました。



ゴミ分別場の見学(香川)

### 3) 災害時における支援活動

9月1日午前11時に高知県室戸岬沖を震源地とするマグニチュード8.0の大規模地震が発生し四国地方整備局との災害協定に基づき技術者の派遣と緊急被害調査の要請が建設コンサルタンツ協会に出たとの想定のもとに、防災訓練を実施しました。



防災訓練

### 4) 若手の会の活動

四国支部では初となる若手の会が平成29年9月7日にメンバー20名で発足しました。

若手の会は、『島国四国に働く技術者として、建設コンサルタンツ業界の発展・活性化を目的として活動し、



若手の会発足会(in高松)

また、若手の会での交流を通じてリーダーとして活躍する人材となれるよう、切磋琢磨できる会とする』ことを活動目的としています。

12月には、若手の会のメンバーによってリクルート活動の一環として香川大学の学生を対象に『建設コンサルタントの仕事紹介』と題してグループ座談会を行いました。四国内の他の大学や高専へのリクルート活動においても若手の会のメンバーが大いに活躍しました。



リクルート活動(in香川大学)

今後は、活動の幅を拡げて、若者の視点で職場における問題点、改善点を抽出し、解決策の議論につなげたり、受発注者の枠を超えた若手同士の意見交換会の開催等の活動を行う予定です。

## 3. おわりに

今、世間では長時間労働からの脱却などの、働き方改革の必要性が叫ばれています。私たちのような高度な技術コンサルティングを糧とする業界にとって、働き方改革は切実な課題と受け止めています。

そのような中で、平成29年度にタイムリーに総務部会の傘下に若手の会が発足しました。

総務部会としては、他の部会とも連携し、若手の会の活動を後押しするとともに、時代環境に即した施策をタイムリーに企画・立案・実行することで、建設コンサルタンツ業界を今よりさらに魅力ある業界に発展・活性化させていく所存です。その結果、ステークホルダーの皆様方のご期待に応えることができればと考えています。

読者の皆様方におかれましては、今後とも温かいご支援・ご協力を賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

# 対外活動部会

## 1. 対外活動部会の5つの活動

### 1) 発注機関への要望提案

#### (1) 四国ブロック意見交換会（8月26日）

協会本部主体（+支部）の発注機関〔四国地整+四国4県〕との意見交換会で、協会の最も重要な活動の1つです。議題の「要望と提案」の作成は、1年がかりです。その都度、皆様からいただいた提案・意見は、本部対活委員会（年4回）で検討しています。次31年度の検討が、既に始まっています。



#### (2) 合同技術交流会（12月15日）

全測連四地協と合同で行う四国地整との意見交換会で、支部活動では最も重要な活動の1つです。就業環境改善、品質向上、入札契約制度改善等の多方面にわたり、より具体的な課題・改善策について意見交換を行っています。

#### (3) 四国4県各土木部との意見交換会（11月）

建コン業や協会の認知度・コミュニケーション向上のために平成28年度から各県ごとに始められました。各県部会が主体となって実施しており、テーマ、議事次第、運営等は、各県部会ごとに特徴があります。

### 2) 協会本部との連携

「意見交換会」の準備から実施、「要望提案」の内容



検討、これに必要な実態調査や意見募集等において、本部との連携窓口または実施主体となっています。

本部支部意見交換会（3/16）は、この連携のために本部支部の幹部が一堂に会する唯一の会であり、発注機関への要望提案や支部活動への支援、働き方改革や人材育成に関する事例紹介や意見交換が活発に行われています。

### 3) 関連団体との協力・連携

部会が所掌する関連団体である「土木学会四国支部」「四国の道路を考える会」には委員として参画しています。また、関連団体である「測量設計業協会」や「地質調査業協会」とは、要望・提案活動や社会貢献活動等、多方面において協力連携しています。

### 4) 報酬・積算に関すること

実態と見合う報酬・積算となっているかどうかの検討を行い、必要に応じて発注者へ要望提案を行っています。

### 5) 地域コンサルタントに関すること

地域コンの健全な発展を図ることを目的に協会本部に地域コンサルタント委員会が設けられています。「経営分析、入札契約制度、広域コンとの連携」の3テーマについて検討しており、その成果の一部が、「建コン白書」や「要望提案」に盛り込まれています。

## 2. 対外活動部会の組織

対外活動部会9名、対外活動委員会11名が部会の組織です。また、本部の対外活動委員会（年4回）及び地域コンサルタント委員会（年6回）に四国支部代表として各1名が参加しています。

## 3. おわりに

今年度、四国ブロック意見交換会（8/8）を皮切りに、昨年度と同様の活動予定です。山積した問題の解決に向けて協会が主体的に発信し、要望提案が少しでも叶うよう着実に進めて参る所存です。会員の皆様には、今年度も引き続き、叱咤激励、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

四国ブロック意見交換会（8/8）は、豪雨災害対応のため、12月3日に延期となりました。



# 企画部会

## 1.はじめに

企画部会では、様々な広報企画と実施を通して本協会からのお知らせや対外的活動報告を行っています。

## 2.平成29年度の活動報告

### 1) 支部創立30周年のあゆみ

四国支部は、昭和60年4月に中国四国支部から分離独立し、平成27年4月に30周年を迎えた事を記念し、「四国支部創立30周年のあゆみ」を編集、発行しました。

発行にあたっては、30年間の足跡を次世代に伝える事等を目的に、記念行事や講演及び幅広い関係者からの記録写真等の収集に努め、平成29年6月に発行させることが出来ました。



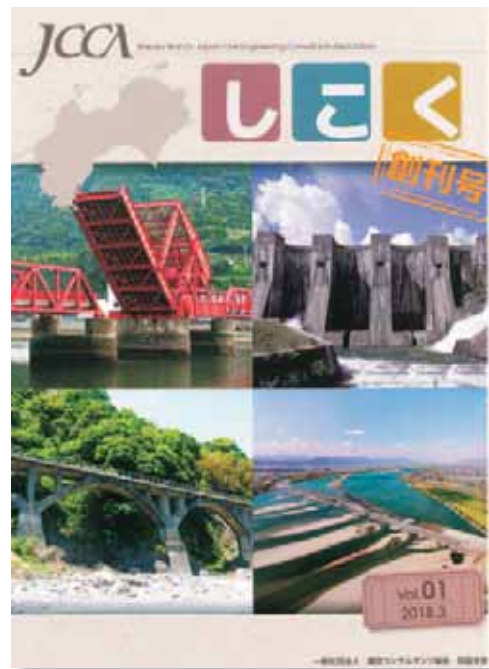
### 2) 支部広報誌「JCCAしこく」の発行

四国支部としての活動記録、対外広報、会員相互間の情報共有、一体感と連帯感の醸成などを目的に、平成30年3月に「支部だより（創刊号）」を編集、発行しました。

発行にあたっては、各支部の発行状況や内容を調査し、「四国らしさ」をコンセプトに7回にわたる編集会議を実施し、四国4県の土木関係部長の皆さんから祝辞を賜るとともに、四国支部の活動や各県の土木遺産の紹介を行い、四国らしく親しみやすいものとなりました。

これからも、四国を支えてきた様々な社会資本をご紹介していきたいと思っています。

今後は、年1回の発行を目指して「支部だより」を皆さんにお届けする予定です。



### 3) 支部ホームページの作成と運営

支部広報活動の更なる向上を目指して、支部ホームページのコンテンツや内容充実を行い、より簡単にタイムリーなデータ更新が図れるよう、そのシステムづくりの検討を行なっています。

## 3.おわりに

昨年度は、記念事業や「支部だより（創刊号）」の発行を行うなど、広報活動の大きな前進を果たす事が出来ました。

これからも、皆様からのご意見を伺いながら、永く愛され親しまれる広報活動を目指して頑張っていきたいと思います。

# 技術部会

## 1.はじめに

技術部会では、技術講習会・セミナー、現場見学会及び勉強会等を通して、協会の技術力向上に関する事や成果品の品質確保に関する活動を行っています。

## 2.平成29年度の活動報告

### 1) 技術講習会・セミナー等

四国支部では、国土交通省四国地方整備局並びに(一社)日本橋梁建設協会四国事務所、(一社)プレストレストコンクリート建設業協会四国支部のご協力を得て、毎年四国四県にて、橋梁及び品質確保に関する技術講習会を開催し、近年では総勢400名程度の参加を得ております。



技術講習会



マネジメントセミナー

更に関連する事業として橋梁架設の現場見学会も開催しております。

また、当協会本部より講師をお招きして、経営・管理者層を対象としたマネジメントセミナーや技術部門の方を対象にした品質セミナー“エラー防止のために”も開催して多くの参加を得ております。

### 2) 設計成果・品質向上委員会等

建コン四国支部の技術の方に参加頂き「設計成果の品質向上に関する勉強会」を開催し、業務中の運用に関する問題点の改善や運用の統一を主たる目的として国土交通省四国地方整備局企画部技術管理課と勉強会を開催しております。

また、橋梁や道路に関して、前途の協会メンバーの中から、協会本部と共に国土技術政策総合研究所や土木研究所との意見交換等へも参加しています。協会四国支部HP(ホームページ)に道路橋相談窓口も開設しておりますので、活用してみてください。

今後、他の分野においてもWG(ワーキンググループ)の様な形で展開して行くつもりです。



現場見学会

## 3.おわりに

品質確保・向上のために使用する資料の充実を図るべく、業務における運用上の問題点やエラー事例を四国支部よりアンケート方式で募る場合もありますので、その際にご協力をお願い致します。

今後も、当協会四国支部会員の方々の技術力向上と品質の確保を目的に技術講習会、現場見学会等を開催してまいりますので、皆様の参加をお待ちしております。

# 資格・情報部会

## 1.はじめに

建設関連分野においては、働き方改革に伴い、業務システムの改革や資格取得が重要な課題となっています。資格・情報部会では、最新の情報を提供することを目的として以下のような活動を実施しています。

## 2.RCCM資格試験

平成28年度よりRCCM資格試験を四国支部（高松）で開催することとなり、受験者からも好評を得ています。

実施日：平成29年11月12日（日）

実施会場：英明高等学校

	H28年度	H29年度
申込者数	574	578
受験者数	423	414
受験率	73.7%	71.6%

## 3.情報技術に関する講習会の開催

### ・情報セキュリティ講習会

リスクを知り、どのような対策を実施すべきなのか、仕組みや事例を基に情報セキュリティ対策を考えることを目的として開催しました。

開催日：平成29年11月7日（火）

場 所：マリンパレスさぬき



CIM(ハンズオン)講習会

### ・GIS講習会

「GISとは何か、GISでどのようなことができるのか、実際の操作方法はどうか」といったGISの基礎を習得することを目的に開催しました。

開催日：初級編 10月18日（水）

中級編 10月19日（木）

場 所：高松センタービル

### ・CIM（ハンズオン）講習会

CIMガイドラインに沿ってCIMを実務に適用するための取り組み方法を、実際にパソコンを操作しながらモデルの作成を習得することを目的として開催しました。

開催日：土工編 7月27日（木）

Infra編 7月28日（金）

場 所：高松センタービル

## 4.ICT普及への取り組み

### ・関係発注期間との連携

四国地方整備局が設置している「四国ICT施工活用促進部会」に参画し、ICTに関する情報収集に努めています。

### ・UAV操作訓練の実施

国土交通省が推進するICTの一環となるUAV（ドローン）の操作技能の向上を目的として実施しています。

実施日時：毎月 第2火曜日（公園の休園日に限る）

実施場所：国営讃岐まんのう公園



ドローン操作訓練状況



—社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント～人と地球の未来のために—

# いであ株式会社

安全・安心で快適な社会の持続的発展を支えます  
健全で恵み豊かな環境の保全と継承を支えます



## いであ株式会社とは社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

いであ株式会社は、2006年6月に環境コンサルタント及び建設コンサルタントとして各々長い歴史を持つ2つの会社が合併して誕生しました。

- ▶ 国土環境株式会社（昭和28年創業）  
気象予報、環境科学のコンサルタン会社
- ▶ 日本建設コンサルタント株式会社  
（昭和34年創業）

河川や道路等の社会資本整備に関わる建設のコンサルタント

社名の「いであ」(I・D・E・A)は「Infrastructure (社会基盤)」、「Disaster (災害)」、「Environment (環境)」、「Amenity (快適性)」の頭文字を合わせたもので「いであ」の業務分野を表現しており、安全・安心で快適な社会の持続的発展と、健全で恵み豊かな環境の保全と継承を支えることを象徴しています。

## いであのサービスの特長

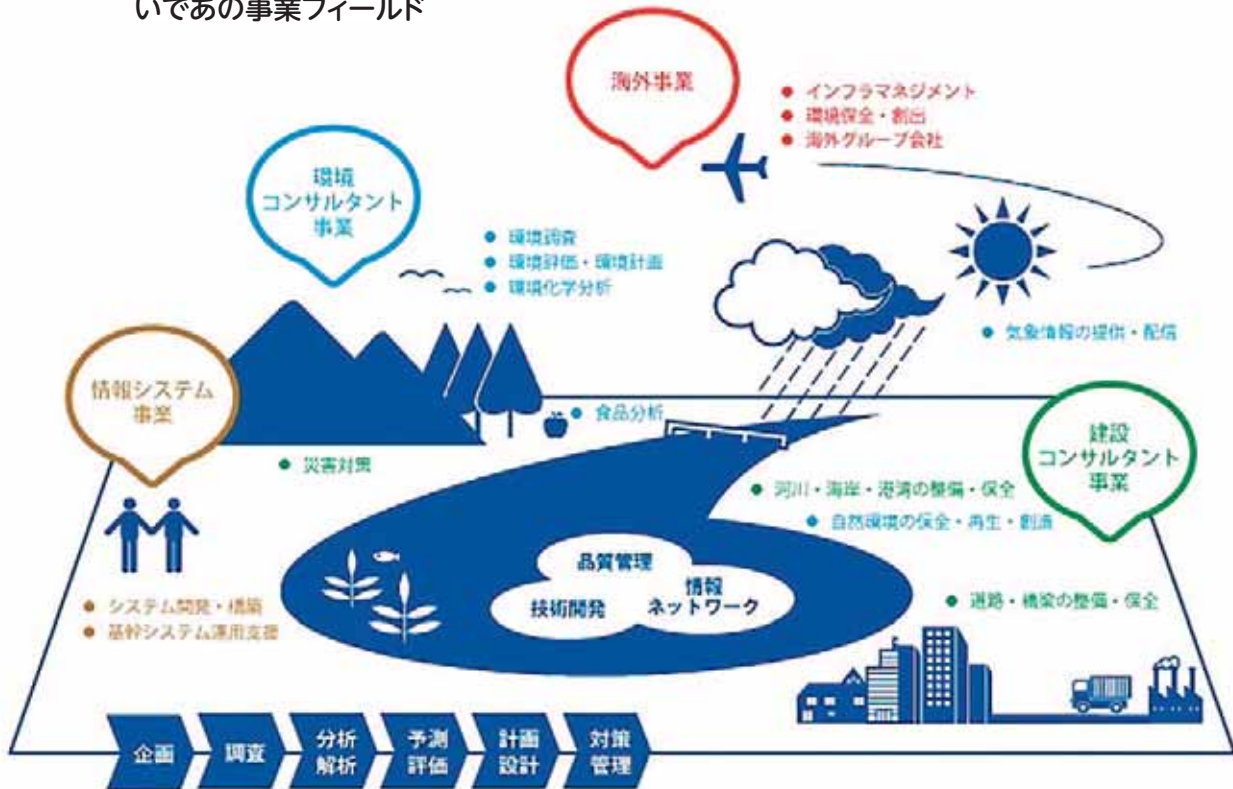
いであは、皆様の生活に欠かせない社会インフラ整備のコンサルタント業務に加え、業界屈指の技術力を有する環境分野のコンサルタント業務をあわせて社内で一貫して行うことができ、建設環境分野においてトップクラスのコンサルティングを提供しています。また、主要拠点においては、技術者が専門分野の垣根なく力を結集して研究開発を行っています。

このように、総合的なアプローチを行うことにより皆様の生活を取り巻く諸課題の解決を支援し、将来にわたる安全・安心で快適な社会の持続的発展と恵み豊かな環境の保全・継承を支えてまいります。

(文責：専務執行役員支店長 工藤 徳人)

# 会員紹介

## いであの事業フィールド



## 土木学会デザイン賞2016 最優秀賞 天神川水門(島根県)



1 穴道湖の景観を妨げない設計



2 水門周辺の夕日

**所在地** 本 社:東京都世田谷区駒沢3-15-1

四国支店・高知営業所:  
高知県高知市駅前町2-16(太陽生命ビル)

高松営業所:  
香川県高松市寿町1-4-3(高松中央通りビル)

徳島営業所:  
徳島県徳島市新町橋2-14-1(マーキュリービル)

**代表者** 代表取締役会長 田畑 日出男  
代表取締役社長 細田昌広  
四国支店代表者:専務執行役員支店長 工藤 徳人

**創業** 昭和28年5月

**会社総数** 956名

**URL** <http://ideacon.jp/>



# —「未来に残す、自然との共生社会」— 株式会社 ウエスコ



1 四国支社全景 2 四国で初めてのラウンドアバウト

## 企業理念

当社は、昭和45年の創業以来、総合建設コンサルタントとして様々な社会資本の整備に携わり、多くの実績を積み重ねてまいりました。

その中で当社が強みとしてきたことは「環境」と「総合力」の二つの言葉です。道路や鉄道、橋梁、都市計画など、新たなものを創造するうえで欠かせないことが「環境」への配慮です。

また、当社が扱う様々な業務は、決して一つの部署だけで完結するものではありません。

設計や調査、施工管理、補償調査、環境などの各分野のプロフェッショナルが連携することで、多様化した課題に対して的確な解決策を導くことができると考えています。

今後も地域に根ざした企業として、「未来に残す、自然との共生社会」を企業理念とすると共に、積極的な投資による多様な技術力、経験豊富な社員と若手社員の力を融合し、「総合力」を持って、社会の発展と地域の未来づくりに貢献します。

## 高度情報化への対応

建設業界全体で「測量・設計・施工における高度情報化」の動きが活発化するなか、従来の設計・調査に加え、地上レーザスキャナや航空レーザ、MMS、マルチビーム深淺測量などの3次元測量、大学と共同研究を行った独自のGISなどの技術を積極的に導入し、社会の新たなニーズや技術革新に果敢にチャレンジしています。

## 若い力

新人研修にも力を入れており、入社1年目の社員と、入社2年目・3年目の社員が配属先の上司とともにOJT研修を行っています。

社会人としてのマナーや実務の習得の狙いもありますが、何よりも横のつながりを深める機会にしてもらいたいと思っています。

また、クラブ活動や若手の交流も活発に行われています。このような横のつながりは、長く仕事をしていく上で必ず心の支えになり、上司や先輩とのコミュニケーション

# 会員紹介



3



4



5



6



7

3 地上レーザスキャナの点群データ 4 支社対抗ソフトボール大会 5 釣り部 釣り大会 6 88クリーンウォーク四国 7 面河ダム公園周辺清掃活動

ン力が向上するとともに若い力が切磋琢磨することで会社の発展にもつながります。

## 社会貢献

地域に根差す当社はボランティア活動や、地球温暖化防止キャンペーンなどに積極的に取り組み、地域環境への貢献を図っています。

四国では88クリーンウォーク四国や面河ダム公園周辺清掃活動などに毎年参加をしています。

(文責：四国支社長 中島 悟)

所在地 香川県高松市紙町494(四国支社)

TEL 087-867-9123

FAX 087-868-3266

徳島県徳島市東大工町1-9-1(徳島営業所)

愛媛県松山市南江戸2-9-17(愛媛事務所)

高知県高知市伊勢崎町12-14(高知事務所)

URL <http://www.wesco.co.jp/>

代表者 代表取締役社長 松原 利直  
四国支社長 中島 悟

創業 昭和45年9月21日

従業員 四国支社34名、全社612名



—「地域社会への貢献」「活力ある豊かな地域社会の実現」—

## 株式会社 エス・ビー・シー



1



2



3



4

1 本社全景 2 「災害時等における消防活動の協力に関する協定書」締結式 3 平成29年度社内業務表彰 4 若手社員たち

### 当社の歴史

当社は、昭和44年に地質調査を行う会社として、徳島県美馬市で創業しました。当時の社名は「四国ボーリング工業」。地すべり地帯として有名な徳島県西部において、その対策設計業務及び工事を主体とし、地元の安心、安全な暮らしを支える企業の一つでした。創業以来、測量、設計、施工と徐々に裾野を広げ、平成25年4月に社名を「エス・ビー・シー」へと変更しました。社員は63名です。

現在では建設コンサルタント業・地質調査業・測量業・建設業を業とし、徳島県のみならず、四国内外を舞台として挑戦を続けています。

### 当社の特徴

徳島県では数少ない、建設コンサルタント業と建設業を

兼業する企業であるため、現業班（施工・地質調査）に人員を多数有することが特徴です。そのためほとんどの工事・地質調査・測量を自社対応しています。若手の人材が多く、活気のある職場であることも大きな特徴です。社員と技術が会社の宝である、と考え、社員一人一人の技術力アップのための勉強会や資格取得制度の充実を進めている他、業務表彰や安全表彰制度などを制定し、技術力アップとやりがい創出に努めています。また、若手グループによる小集団活動を通じて、ワークライフバランスの改善にも取り組んでいます。ISO（品質・環境）の取得の他、大規模災害時のBCPの策定についても積極的に進め、年次で改善活動を行っています。

### 近年の取り組み

近年では3次元測量機（ライカ製）やICT土工にも適用可能な高性能ドローンの導入により、積極的な業務の3次



# 会員紹介



5 ドローン機材一式 6 インターンシップ開催式 7 カメラ操作を学ぶ学生 8 動画編集作業中 9 発表・審査 10 研修を終えて集合写真

元化を図っています。その他、4連自動三軸圧縮試験機や大型クロラドリル導入などの設備投資に加え、気泡ポーリングなどの技術導入を進めてきました。

一方、人口減少が進む地域社会において、雇用の確保は今後さらに厳しくなるものと見込んでいます。地域の雇用を確保し、安全で安心な生活を支えるため、地元企業として更なる挑戦を続けていきます。その取り組みの一つとして、本年度、大規模なインターンシップを実施しましたのでご紹介します。学生の参加者数は18名で、11月実施の体験型インターンシップとしては四国でNo.1の動員数であったと聞いております。

このプロジェクトはドローンで撮影した地元の観光名所の静止画や動画を材料に、学生に観光PR動画を作成してもらい、その成果の出来栄を競ってもらった企画でした。審査員には徳島県・美馬市・地元観光協会の職員様や映像分野の大学教授を招き、厳正な審査を行いました。単に自社の雇用確保のみならず、地元美馬市に縁もゆかりもない大学生に自ら観光PR動画を作ってもらったことで、まちの良い所を知ってもらい、将来的に美馬市で根付く、あるいは観光で再訪する人が増えれば、と企画したものでした。

インターンシップ期間中、学生からは「こんな楽しい企画のインターンシップは経験した事がない」「また美馬市に来たくなります」など、好評をいただいた他、現在ではそのうちの学生2名が会社になじみ、出入りをしてくれるようになっています。また、インターンシップ後の

会社見学者も前年比べて増加しております。社員にとっても、大学生のプロジェクトへの熱心な取り組み姿勢は大きな刺激となったようです。この取り組みが評価され、2018年の「学生が選ぶインターンシップアワード」に入賞を果たすことができました。これは全国の企業で14社という狭き門でしたが、取り組みの独自性が評価されたものと光栄に思います。

## よりよい地域社会を目指して

地域の発展なくして企業の成長なし、また、その逆も然りだと考えています。活気ある徳島県、美馬市の創出を目指し、その一翼を担うことができれば本望です。今後とも時代の変化を捉えながら、絶え間なく挑戦を続ける所存です。

(文責：代表取締役 木村 充宏)

所在地 〒779-3742

徳島県美馬市脇町字西赤谷1063番地の1

TEL 0883-52-1621

FAX 0883-52-1685

URL <http://www.sbc-1969.co.jp/>

従業員 63名

設立 昭和44年

代表者 代表取締役 木村 充宏



—エネルギー・人・チャレンジ—

# 株式会社 愛媛建設コンサルタント



1



2

1 社屋 新館全景(愛媛県松山市) 2 健康経営優良法人2018 認定証

## 経営理念

当社は、「エネルギー・人・チャレンジ」という言葉を胸に、地元愛媛産の建設コンサルタントとして、地質調査・測量・設計等に携わっている。創業は昭和37年4月。愛媛県庁に勤めていた祖父の神野金次郎が社を起こしたことに始まる。その時の屋号は「松山さく泉株式会社」。昭和48年、現住所への移転を機に「松さくコンサルタント」に、また、2代目社長の神野繹の代の平成8年4月に現在の社名である「愛媛建設コンサルタント」に社名変更した。

ロゴである「EKC」は、「E：エネルギー」と「C：チャレンジ」を「K：人」が両手を広げて支えていることを表現している。

社長室には「一以貫之」と書かれた額を飾っている。元大相撲立行司第二十九代木村庄之助さんの書。日本橋三越で開催されたチャリティ会場で偶然目に留まり、座右の銘として心に刻んでいる。

EKCが掲げる三つの企業理念は、次の通り。「社会から信頼される企業を目指す」「自らの心に誠実という鏡を持つ」「企業活動の源たる売れる技術を持つ」。EKCの行動指針は、「輪になって仕事をしよう！」。

当社は、平成30年2月に、「健康経営優良法人2018 (中小規模法人部門)」に認定された。

「健康経営」とは、社員の健康を重要な経営資源と捉え、健康づくりに積極的に投資するもの。少子高齢化社会を踏まえて、現在の経営体制を保持するためには、「健康経営」の必要性を痛感し、平成29年5月に全国健康保険協会愛媛支部が証する「健康づくり推進宣言」を行った。当協会のバックアップのもと、食生活の改善や運動機会の推進に向けた取り組みほか、受動喫煙対策など具体的な取り組みを実践している。

今後は、社員のストレスチェックの実施などについても検討していく予定である。

## 企業活動方針

当社は、愛媛県を中心に「四国の地形・地質がわかる建設コンサルタント」を目指しており、建設コンサルタントとして必要な資格取得についても積極的に取り組んでいる。また、土木学会、地盤工学会、全地連等が主催する技術発表会にも積極的に参加し、技術者としてのプレゼンテーション能力を高めるとともに技術成果をアピールしている。直近では、全地連主催の地質リスク学会(平成28年11月開催)や地盤工学会四国支部主催の研究発表会(平成29年11月開催)にて発表した。

当社のDNAが試される時代であり、今、頑張らなければ、明日はないという強い思いが求められる。愛媛産の



3 おもしろ理科出前教室 立岩小学校での開催の様子 4 防災教室 父二峰小学校での開催の様子 5 愛リバー・ボランティア活動の様子

建設コンサルタントとして、これからも地域に役立つ技術力は何か、また何ができるのか、何をしなければならないのか、社員一人一人と真剣に向き合い、「愛顔(えがお)あふれる愛媛」の良き市民企業として「安全で安心なまちづくり」「暮らしを支え、育むまちづくり」「暮らしにゆとりと安らぎを実感できるまちづくり」に貢献していきたい。

出会い、お力添えをいただき、周りの方々に支えられ、楽しく仕事に取り組むことができました。「縁尋機妙」「多逢勝因」。人のご縁を大切に、これからも支えていただいた皆様に感謝の気持ちを持って、仲間とともに「俺がやる・協力する・明るくする」を合い言葉に、一步一步、歩んで参ります。これからもよろしくお願い申し上げます。

(文責：代表取締役 神野 邦彦)

## 社会貢献活動

地域防災力を高めるために、地域住民を対象とした防災講演や小学生を対象とした防災教育・理科教育(おもしろ理科出前授業)などに積極的に取り組んでいる。また、平成12年から毎年実施している愛リバー・ボランティア活動などの地域貢献活動にも取り組んでいる。

## 社長からのメッセージ

父の代から社業を引き継ぐため、地元愛媛の地に戻り20年の歳月が流れました。ふり返れば、いろいろな方と

所在地 〒790-0036  
愛媛県松山市小栗7丁目11番18号

TEL 089-947-1011

FAX 089-941-8606

URL <http://www.ekcwing.co.jp>

社員 31名(平成30年4月1日現在)

設立 昭和37年4月

代表者 代表取締役 神野 邦彦

## ① リニューアルされた四国支部ホームページのコンセプト

利便性の高いHPを目指すことを目的として、機能が充実したウェブサイトビルダー（JINDO）を導入し、当協会のHPがリニューアルされる運びとなりましたことを、会員の皆様にご報告いたします。新しい四国支部HPのコンセプトは以下の通りです。

- ①年間行事などの情報を四国支部会員間で共有する。
- ②四国支部の存在や価値を発注官庁や自治体にアピールする。
- ③トピックスをタイムリーにアップしてゆく。
- ④活動記録を残す。

## ② 旧ホームページの変遷と新ホームページの改善点

これまで、ホームページの更新ソフトには以下の変遷がありました。

当初のHPは平成25年以前に立ち上げられ、フリーソフト alpha EDIT で作成されていました。その後、Share Point Designer の使用を経て、平成29年からの更新には、ホームページビルダーが使用されていました。

これらの更新ソフトの共通点は、旧ホームページのコンテンツを変更・新設するためにHTML言語の専門知識を持った管理者が必要で、ソフトの機能の関係から、画面はシンプルでデザイン性に乏しさがありませんでした。

さらに最近では、HPをスマートフォンやタブレットで閲覧する機会が多いことから、携帯端末等の画面に最適化される機能に対応したソフトで作成することが望まれていました。

そこで、プログラミングに関する専門的知識が無くても簡単に編集・更新ができ、デザイン機能が高いウェブサイトビルダー「Jindo」に切り替え、リニューアルはすべての作業を企画部会広報委員会のメンバーで行いました。

## ③ リアルタイムな情報発信

(四国支部「新」ホームページのURL <https://www.jcca-shikoku.jp/>)

今後は、利用される皆様方のご意見をお伺いしつつ新たなコンテンツの追加を行うとともに、シンプルかつ、リアルタイムな更新を目指して、利用しやすいHPをご提供できるように努めてまいります。各部会や専門委員会のトピックスを事務局にメールで送っていただければ、ほぼリアルタイムにHPにアップしますので、よろしくお願いたします。



道路橋技術相談窓口の常設

会員専用ページの追加



フォトギャラリーの追加



# 役員名簿

平成30年度

## 四国支部役員

支部長	末澤 等	(株)四電技術コンサルタント
副支部長	坂東 武	四国建設コンサルタント(株)
副支部長	大野 二郎	(株)芙蓉コンサルタント
副支部長	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
副支部長	山崎 秀幸	(株)四電技術コンサルタント
支部理事	齋藤 恒範	(株)エコー建設コンサルタント
支部理事	水上 博史	(株)和コンサルタント
支部理事	浅野 雄嗣	(株)五星
支部理事	中山 誠	復建調査設計(株)
支部理事	井上 雄二	(株)四電技術コンサルタント
支部理事	岡 兵典	(株)富士建設コンサルタント
支部理事	辻 和秀	(株)エイト日本技術開発
支部監事	公文 高志	(株)サン土木コンサルタント
支部監事	吉田 幸男	構営技術コンサルタント(株)

**1 総務部会**

部会長	井上 雄二	(株)四電技術コンサルタント
副部会長	齋藤 恒範	(株)エコー建設コンサルタント
副部会長	飯沼 達夫	日本工営(株)
副部会長	吉田 幸男	構営技術コンサルタント(株)
委員	福井 雅浩	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	白川 幸男	(株)福山コンサルタント
委員	三木 隆	アジア航測(株)
委員	高橋 久彦	(株)地圏総合コンサルタント
委員	渡部 芳彦	(株)ダイヤコンサルタント
委員	竹島 和司	(株)四電技術コンサルタント

**社会貢献活動委員会**

委員長	森 健	(株)四電技術コンサルタント
委員	竹内 克宜	復建調査設計(株)
委員	織田 雅文	(株)五星
委員	篠丸 弘行	(株)五星
委員	末広 勝	(株)エコー建設コンサルタント
委員	藤田 達也	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	青木 正典	(株)第一コンサルタンツ
委員	福本 英司	(株)サン土木コンサルタント
委員	森野 清満	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	森井 一正	(株)エイ日本技術開発
委員	竹島 和司	(株)四電技術コンサルタント
委員	高橋 幸宏	(株)四電技術コンサルタント
委員	横井 弘尚	(株)四電技術コンサルタント
委員	森川 将人	(株)四電技術コンサルタント松山支店

## 災害対策委員会

委員長	岡村 環	四電技術コンサルタント(株)
副委員長	伊藤 友喜	四国建設コンサルタント(株)
委員	齋藤 恒範	(株)エコー建設コンサルタント
委員	飯沼 達夫	日本工営(株)
委員	白川 幸男	(株)福山コンサルタント
委員	天羽 誠二	四国建設コンサルタント(株)
委員	松本 洋一	(株)第一コンサルタンツ
委員	丸 晴弘	日本工営(株)
委員	須賀 幸一	(株)芙蓉コンサルタント
委員	森 健	四電技術コンサルタント(株)
委員	竹島 和司	四電技術コンサルタント(株)

## 若手の会

リーダー	森實 良子	(株)四電技術コンサルタント
サブリーダー	西山 毅	(株)芙蓉コンサルタント
	藤川 健太	四国建設コンサルタント(株)
	笹岡 信孝	四国建設コンサルタント(株)
	岩永 健志	四国建設コンサルタント(株)
	中藤 亮太	(株)芙蓉コンサルタント
	齋藤 啓太	(株)第一コンサルタンツ
	兵頭 学	(株)第一コンサルタンツ
	佐藤 暁	(株)四電技術コンサルタント
	山口 亮太	(株)エコー建設コンサルタント
	荻野 泰彦	(株)エコー建設コンサルタント
	木村 和宏	(株)エス・ビー・シー
	松井 一貴	(株)エス・ビー・シー
	河津 孝典	(株)五星
	松下 雄一	(株)五星
	小笠 直孝	ニタコンサルタント(株)
	藤田 真人	ニタコンサルタント(株)
	酒井 孟	(株)フジタ建設コンサルタント
	山川 和輝	(株)フジタ建設コンサルタント
	島田 菜穂	日本工営(株)
	佐藤 琢	日本工営(株)

## 2 対外活動部会

部会長	坂東 武	四国建設コンサルタント(株)
副部会長	川崎 末和	(株)ウエスコ
副部会長	大山 洋一	応用地質(株)
副部会長	矢野 史明	(株)ワタリコンサルタント
副部会長	天羽 誠二	四国建設コンサルタント(株)
委員	藤田 達也	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	横山 嘉夫	いであ(株)
委員	秋月 憲夫	(株)建設技術研究所
委員	小西 富士彦	(株)シアテック
委員	恒石 和義	基礎地盤コンサルタンツ(株)

### 対外活動委員会

委員長	坂東 武	四国建設コンサルタント(株)
委員	小笠 涉	四国建設コンサルタント(株)
委員	井内 浩明	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	安藝 哲也	(株)五星
委員	杉原 智己	四電技術コンサルタント(株)
委員	谷本 和幸	(株)富士建設コンサルタント
委員	泉田 克典	(株)芙蓉コンサルタント
委員	小野 裕正	(株)第一コンサルタンツ
委員	水野 隆之	構管技術コンサルタント(株)
委員	中山 誠	復建調査設計(株)
委員	辻 和秀	(株)エイ日本技術開発

## 3 企画部会

部会長	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
副部会長	小笠 義照	ニタコンサルタント(株)
副部会長	崎本 繁治	(株)オリエンタルコンサルタンツ
副部会長	岡 兵典	(株)富士建設コンサルタント
委員	宮本 卓也	国土防災技術(株)
委員	河野 一郎	セントラルコンサルタント(株)
委員	笠井 茂夫	(株)長大
委員	松井 隆	(株)片平新日本技研
委員	石本 修	中央復建コンサルタンツ(株)
委員	神野 邦彦	(株)愛媛建設コンサルタント
委員	永野 敬典	(株)相愛

### 広報委員会

委員長	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
副委員長	岡 兵典	(株)富士建設コンサルタント
副委員長	河野 一郎	セントラルコンサルタント(株)
委員	小川 修	四国建設コンサルタント(株)
委員	田村 猛	ニタコンサルタント(株)
委員	藤本 憲洋	(株)富士建設コンサルタント
委員	山下 敬吾	(株)五星
委員	三枝 茂樹	事務局



## 4 技術部会

部会長	大野 二郎	(株)芙蓉コンサルタント
副部会長	水上 博史	(株)和コンサルタント
副部会長	浅野 雄嗣	(株)五星
副部会長	公文 高志	(株)サン土木コンサルタント
委員	湯浅 喜久一	八千代エンジニアリング(株)
委員	五藤 隆彦	(株)東京建設コンサルタント
委員	廣瀬 尚二	大日本コンサルタント(株)
委員	直本 啓祐	川崎地質(株)
委員	有馬 賢一	(株)パスコ
委員	中木 一文	(株)基礎建設コンサルタント
委員	藤村 修作	南海測量設計(株)

## 設計成果品質向上委員会

委員長	大野 二郎	(株)芙蓉コンサルタント
委員	佐伯 信哉	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	藤本 秀貴	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	浦嶋 義文	(株)エイト日本技術開発
委員	鈴木 誠	(株)エイト日本技術開発
委員	坂東 武	四国建設コンサルタント(株)
委員	天羽 誠二	四国建設コンサルタント(株)
委員	小川 修	四国建設コンサルタント(株)
委員	福田 茂	四国建設コンサルタント(株)
委員	楠本 雅博	(株)第一コンサルタンツ
委員	西川 徹	(株)第一コンサルタンツ
委員	濱田 拓也	(株)第一コンサルタンツ
委員	井内 浩明	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	山本 治夫	(株)フジタ建設コンサルタント
委員	小西 親	復建調査設計(株)
委員	松本 豊久	復建調査設計(株)
委員	七宮 司	(株)四電技術コンサルタント
委員	福井 哲也	(株)四電技術コンサルタント
委員	泉田 克典	(株)芙蓉コンサルタント

## 5 資格・情報部会

部会長	中山 誠	復建調査設計(株)
副部会長	松本 祐一	(株)松本コンサルタント
副部会長	藤田 和博	国際航業(株)
副部会長	笠原 睦士	(株)エイト日本技術開発
委員	岡崎 健二	(株)建設環境研究所
委員	佐藤 至紀	(株)ニュージェック
委員	白石 央	(株)荒谷建設コンサルタント
委員	木村 充宏	(株)エス・ビー・シー
委員	水口 覚	(株)ティーネットジャパン
委員	祖母井 正博	(株)ウエストコンサルタント
委員	岡林 均	(株)千代田コンサルタント

## ICT 専門委員会

委員長	後藤 良夫	(株)四電技術コンサルタント
委員	妹尾 正也	四国建設コンサルタント(株)
委員	加藤 公啓	復建調査設計(株)
委員	松坂 偵浩	(株)芙蓉コンサルタント
委員	酒井 寿彦	(株)第一コンサルタンツ

# 四国支部会員名簿

平成30年7月1日現在

51社(五十音順)

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
アジア航測(株) 四国支店	支店長 三木隆	〒760-0023 高松市寿町1-4-3	087-823-5555 087-823-5560
(株)荒谷建設コンサルタント 四国支社	支社長 白石央	〒790-0045 松山市余戸中2-1-2	089-973-2311 089-972-0026
いであ(株) 四国支店	専務執行役員支店長 工藤徳人	〒780-0053 高知市駅前町2-16(太陽生命高知ビル)	088-820-7701 088-820-7702
(株)ウエスコ 四国支社	執行役員四国地区統括 川崎末和	〒761-8055 高松市紙町494	087-867-9123 087-868-3266
(株)ウエストコンサルタント	代表取締役 祖母井正博	〒790-0047 松山市余戸南1-20-33	089-974-3535 089-974-2228
(株)エイト日本技術開発 四国支社	執行役員四国支社長 辻和秀	〒790-0054 松山市空港通2-9-29	089-971-6511 089-973-3132
(株)エコー建設コンサルタント	代表取締役 齋藤恒範	〒770-0865 徳島市南末広町4-53	088-625-6066 088-625-6099
(株)エス・ビー・シー	代表取締役 木村充宏	〒779-3742 徳島県美馬市脇町字西赤谷1063-1	0883-52-1621 0883-52-1685
(株)愛媛建設コンサルタント	代表取締役 神野邦彦	〒790-0036 松山市小栗7-11-18	089-947-1011 089-941-8606
応用地質(株) 四国支社	執行役員四国支社長 大山洋一	〒791-8013 松山市山越4-4-33	089-925-9516 089-925-9582
(株)オリエンタルコンサルタンツ 四国支店	取締役執行役員四国支店長 崎本繁治	〒760-0023 高松市寿町1-3-2(高松第一生命ビル6F)	087-821-4012 087-826-5251
(株)片平新日本技研 四国事務所	所長 松井隆	〒770-0816 徳島市助任本町1-2-3	088-611-1261 088-611-1262
(株)和コンサルタント	代表取締役 水上博史	〒770-0002 徳島市春日1-6-9	088-632-4330 088-632-4334
川崎地質(株) 四国支店	支店長 直本啓祐	〒791-8026 松山市山西町801-4	089-951-1630 089-953-1577

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
(株)基礎建設コンサルタント	代表取締役 中木一文	〒779-3120 徳島市国府町南岩延883-9	088-642-5330 088-642-4216
基礎地盤コンサルタンツ(株) 四国支店	支店長 樋口昭雄	〒791-8015 松山市中央1-11-20	089-927-5808 089-927-5812
(株)建設環境研究所 高松支店	支店長 岡崎健二	〒760-0068 高松市松島町1-13-10(カントビル5F)	087-835-6908 087-835-6909
(株)建設技術研究所 四国支社	支社長 秋月憲夫	〒760-0027 高松市紺屋町1-3(香川紺屋町ビル4F)	087-823-5531 087-823-5532
構営技術コンサルタント(株)	代表取締役社長 吉田幸男	〒780-0945 高知市本宮町105-23	088-850-0550 088-850-0551
国際航業(株) 西日本支社高松支店	支店長 村上幸一	〒760-0078 高松市今里町2-19-7	087-834-7575 087-837-3805
国土防災技術(株) 四国支店	支店長 宮本卓也	〒771-0144 徳島市川内町榎瀬676-1	088-666-3232 088-666-3233
(株)五星	代表取締役会長 浅野雄嗣	〒767-0011 三豊市高瀬町下勝間670-1	0875-72-4181 0875-72-3633
(株)サン土木コンサルタント	代表取締役社長 公文高志	〒780-0066 高知市比島町4-6-33	088-824-1462 088-824-1461
(株)シアテック	代表取締役社長 小西富士彦	〒792-0003 新居浜市新田町3-1-39(惣開ビル)	0897-32-3937 0897-32-5979
四国建設コンサルタント(株)	代表取締役社長 坂東武	〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地3-1	088-683-3322 088-683-3323
セントラルコンサルタント(株) 四国事務所	所長 丸西義昭	〒780-0056 高知市北本町1-3-1(鹿島高知営業所ビル)	088-826-7383 088-826-7384
(株)相愛	代表取締役 永野敬典	〒780-0002 高知市重倉266-2	088-846-6700 088-846-6711
(株)第一コンサルタンツ	代表取締役社長 右城猛	〒781-5105 高知市介良甲828番地1	088-821-7770 088-821-7771

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
大日本コンサルタント(株) 四国支店	執行役員支店長 廣瀬尚二	〒760-0026 高松市磨屋町3-1(合田不動産磨屋町ビル2F)	087-851-9292 087-851-9291
(株)ダイヤコンサルタント 四国支店	支店長 渡部芳彦	〒790-0952 松山市朝生田町2-8-37	089-941-4855 089-932-1928
(株)地圏総合コンサルタント 四国支店	支店長 高橋久彦	〒792-0001 新居浜市惣開町1-6	0897-33-3123 0897-37-1603
中央復建コンサルタンツ(株) 四国営業所	所長 石本修	〒760-0023 高松市寿町1-2-5(井門高松ビル)	087-825-5701 087-825-5702
(株)長大 高松支社	支社長 笠井茂夫	〒761-0303 高松市六条町799-5	087-864-8715 087-864-8755
(株)千代田コンサルタント 四国事務所	所長 照屋尚志	〒780-0022 高知市北秦泉寺190-10	088-826-8151 088-826-8152
(株)ティーネットジャパン	代表取締役社長 中尾隆治	〒761-8081 高松市成合町930-10	087-886-8118 087-886-8137
(株)東京建設コンサルタント 四国支社	支社長 五藤隆彦	〒760-0023 高松市寿町1-3-2(高松第一生命ビルディング)	087-821-2888 087-811-0010
南海測量設計(株)	代表取締役社長 藤村修作	〒790-0964 松山市中村3丁目1-7	089-931-1212 089-931-7900
ニタコンサルタント(株)	代表取締役 小笠義照	〒771-0122 徳島市川内町鈴江西38-2	088-665-5550 088-665-0115
日本工営(株) 四国支店	支店長 飯沼達夫	〒760-0033 高松市丸の内4-4(四国通商ビル5F)	087-811-2660 087-811-2665
(株)ニュージェック 四国支店	支店長 佐藤至紀	〒760-0017 高松市番町4-15-5(新英ビル)	087-834-7522 087-834-7523
パシフィックコンサルタンツ(株) 四国支社	支社長 福井雅浩	〒760-0027 高松市紺屋町4-10(鹿島紺屋町ビル)	087-851-5645 087-851-5673
(株)パスコ 香川支店	支店長 神田正一	〒760-0055 高松市観光通2-2-15	087-833-1212 087-833-1219

会社名	代表者	所在地	電話番号 FAX番号
(株)福山コンサルタント 四国事務所	所長 齋藤弘	〒760-0023 高松市寿町1-1-12	087-811-7120 087-811-7130
(株)富士建設コンサルタント	代表取締役 岡兵典	〒798-0015 宇和島市和霊元町2-4-15	0895-25-3344 0895-25-3663
(株)フジタ建設コンサルタント	代表取締役 藤田達也	〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1	088-698-2155 088-698-2134
復建調査設計(株) 四国支社	常務執行役員四国支社長 中山誠	〒760-0020 高松市錦町1-3-9	087-826-1911 087-826-1912
(株)芙蓉コンサルタント	代表取締役社長 大野二郎	〒790-0063 松山市辻町2-38	089-924-1313 089-923-5717
(株)松本コンサルタント	代表取締役 松本祐一	〒770-0811 徳島市東吉野町2-24-6	088-626-0788 088-622-1768
八千代エンジニアリング(株) 四国統括事務所	所長 高野浩二	〒760-0018 高松市天神前10-12(香川天神前ビル5F)	087-800-7409 087-800-7412
(株)四電技術コンサルタント	代表取締役社長 末澤等	〒761-0121 高松市牟礼町牟礼1007-3	087-845-8881 087-887-2205
(株)ワタリコンサルタント	代表取締役社長 矢野史明	〒787-0011 四万十市右山元町3-3-12-7	0880-34-3640 0880-34-2713

# 編 集 後 記

「JCCAしこく」第2号をお届けさせていただきます。

本年7月の西日本豪雨では、四国をはじめ西日本各地で甚大な災害が発生しました。お亡くなりになられました方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被災されました地域の皆様にお見舞いを申し上げます。被災された皆様の生活が一日も早く復旧、復興することを心よりお祈り申し上げます。

本号では、支部のトピックス、支部活動、四国支部が主催する技術講習会やセミナーを紹介するとともに、「台湾を愛した日本人土木技師 八田與一の生涯」の著者である古川勝三先生と国土交通省北海道開発局の協力をいただき高知県出身で近代土木の先駆者「廣井勇」のミニ特集を組みました。

現在に至る多くの土木施設は、私たちにたくさんの恩恵を与えてくれています。その建設に携わった多くの土木技術者の精神もまた現代に引き継がれています。

私たち建設コンサルタンツ協会四国支部会員は、そうした先駆者達の精神を受け継ぎ、国土や国民の生命・財産を守る社会資本整備に貢献するとともに、会員だけでなく官公庁や自治体の皆様にもお役に立つ機関誌となるよう努めて参ります。

今後とも皆様方のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 編集委員

委員長 右城猛

副委員長 岡兵典、河野一郎

委員 田村猛、小川修、山下敬吾、藤本憲洋、三枝茂樹

JCCAしこく Vol.02

2018年8月発行

編集 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 広報委員会

発行者 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部 末澤 等

印刷所 株式会社 美巧社

発行所 (一社) 建設コンサルタンツ協会四国支部

〒760-0006 高松市福岡町3-11-22 建設クリエイティブビル4F

TEL 087-851-5881/FAX 087-823-8730

E-mail jcca@carrot.ocn.ne.jp



私たちは、四国に住む人々の安全・安心と  
豊かな暮らしを守るため、  
社会資本整備事業のあらゆる分野に携わっています。